

経営比較分析表（令和5年度決算）

兵庫県 相生市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	CC1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	49.20	85.52	82.47	3,270

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,468	90.40	303.85
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
23,300	6.81	3,421.44

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】令和5年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

全体総括

1. 経営の健全性・効率性について

【経常損益】
経常収支比率は、100%を上回っているため経営は、安定している。

【支払能力】

流動比率は100%を下回っているが、年間を通じて定期的に安定した使用料収入があるため数字以上の支払い能力を有している。

【債務残高】

企業債務残高対事業規模比率は、他団体に比べ大きい。

【使用料水準の適切性】

経費回収率は、100%であり、使用料収入により汚水の処理費用を賄うことが出来ている事に加え、類似団体平均を上回っている。

【費用の効率性】

汚水処理原価は、平地の割合が少ない等地理的原因により、類似団体平均値を上回ってしまっている。今後は、施設老朽化により修繕等の経費が増加し、人口減による有収水量の減少も予想されるため、益々処理原価は増加していくことが予想される。

【施設の効率性】

施設利用率は、類似団体平均値を下回っているが、人口増加による効率性の改善は見込めないため、施設の統廃合等を進めて効率的な施設運営に努める必要がある。

2. 老朽化の状況について

【施設全体の減価償却の状況】

【管渠の経年化の状況】
【管路の更新投資・老朽化対策の実施状況】
平成元年から随時供用開始された事業であるが、耐用年数を経過した管渠はない。

現時点では適切な維持管理を行うことで施設の延命化に努めているが、将来の施設更新について、計画的に実施していく必要がある。

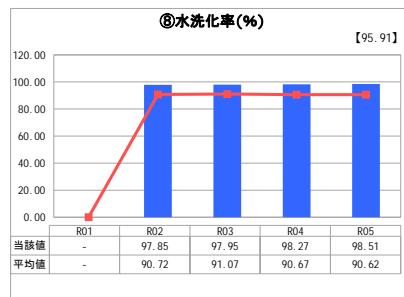
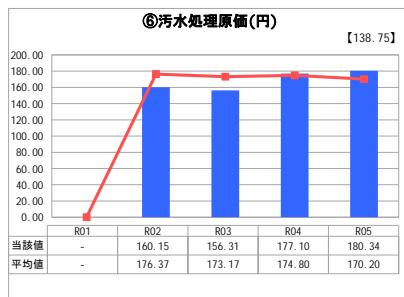
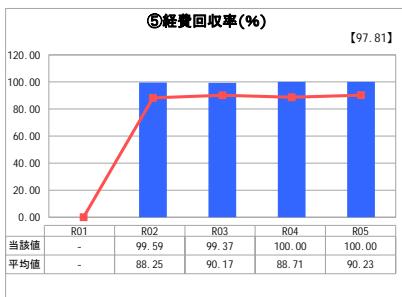
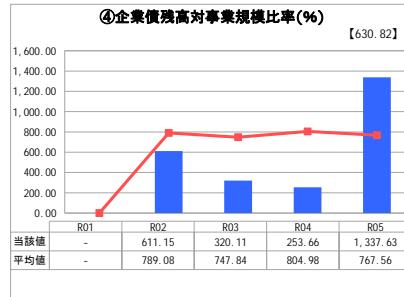
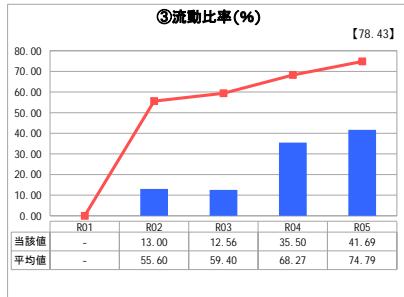
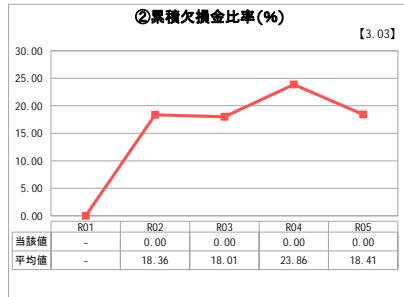
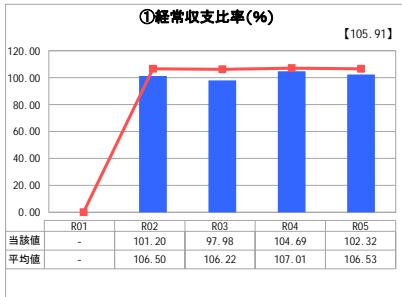
全体総括

本事業は、平成元年から供用開始し、水洗化率は98%となっている。

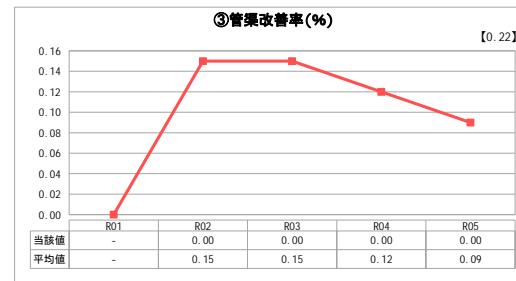
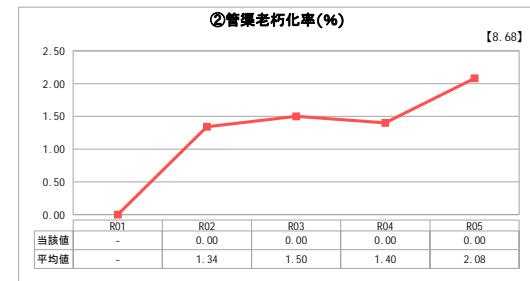
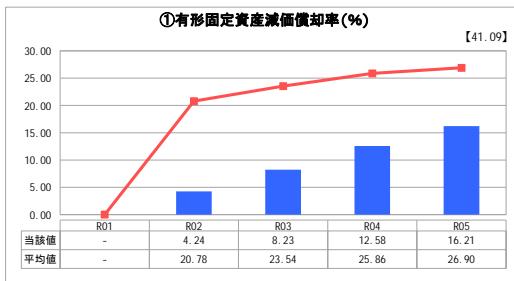
施設建設時の起債借入に伴う償還金が多額となっており、収支を圧迫していることに加え、今後、人口減少による使用料収入の減少や施設更新に伴う支出の増といった要因により、経営状況は益々厳しくなることが予想される。

今後も、民間委託や事業統合を検討していくなど効率化を進めるとともに、財政状況及び経営状況のさらなる透明化・明確化を図りながら、「経営戦略」に沿った計画的で合理的な事業運営を行い、経営改善に努めていくことが重要である。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。